

港湾振興便り



2013. 9

第77号

*:

目次

*::~

1 ポートエッセイ — 「国家戦略特区」の有効活用を —
日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭

2 トピック

- 「南海トラフ巨大地震に備えて」～海洋環境整備船の代替基地港の検討について～
(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)
- 「ぱしふいっくびいなす就航15周年記念クルーズ」 宿毛湾港新港へ寄港！
(宿毛市 企画課)
- 第4回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in OITA開催！
(九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所)
- 国土交通省港湾局監修 港湾データブック「数字で見る港湾2013」が発刊されました
(国土交通省港湾局 港湾計画課)
- 愛称「波の上みそら公園」に決定しました！
(那覇港管理組合 計画課)
- JATA旅博において港湾の利用促進をPR
(北海道総合政策部交通政策局物流港湾室)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ — 「国家戦略特区」の有効活用を —

日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭

*:

安倍政権は、成長戦略の目玉として「国家戦略特区」を打ちだしてきた。成長戦略はアベノミクスのいわゆる3本の矢の1つで、安倍経済政策の成否を握る重要分野だ。

この戦略特区は4月に政府の産業競争力会議からの提案を受けて具体化されたもので、規制改革・緩和を柱に日本を活性化するのが狙いだ。当初は3大都市圏中心といわれたが、いまでもその影はちらついていると思う。

担当事務局は「この規制が取り払われたら、こういうプロジェクトや構想が具体化され、日本経済をこれぐらい押し上げる効果が出せる、というものを提案してほしい」という。「規制緩和を機に動き出すのは、その分野に関連する企業が中心となる。有力企業が集中しているのは大都市圏だから、やはり大都市圏が有利だ」との識者の声をよく聞く。

しかし、それぞれの地域にはそれぞれの特性があり、その特性を活かした規制緩和や改革を考えることは十分に可能だ。「大都市圏中心の国家戦略特区」にしないためにも、地方からのアイデアや提案が必要だ。

そんな問題意識を持って、私の地元・新潟も「国家戦略特区」に新潟県などと共に手を挙げることにした。新潟からの切り口は、港湾と関係が深いエネルギーや食料・農業、対岸、防災などとなる。

新潟県は「エネルギー中心に提案したい」とのことなので、LNG基地を持つ新潟市と聖籠町、それに上越市が加わり、検討を詰めている。

担当事務局は「地域の未来像を描くのではなく、個別アイデアで良いから経済界を含めてインパクトのあるものを」求めている。この方向を確認できたので、新潟市としては新潟経済同友会からの提案も取り入れ、「ニューフードバレー」「環日本海ゲートウェイ」「創業・起業」の3分野でも提案することにした。

日本全体の活性化に資する国家戦略特区となるよう、大都市圏だけでなく多くの地方から、港湾を大きな切り口として有効・有用な提案がなされることを期待している。

*:

2 トピック

*:

●「南海トラフ巨大地震に備えて」～海洋環境整備船の代替基地港の検討について～

(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)

近畿地方整備局 和歌山港湾事務所所属の海洋環境整備船「海和歌丸（うみわかまる、199トン）」は、和歌山下津港を基地港（和歌山市青岸）として和歌山県紀伊水道や大阪湾南部の海面を浮遊する漂流ゴミの回収を職員7名が担っており、年間では2トントラックに換算して約300台に相当するゴミを回収しております。



▲【災害派遣で流木を回収する海和歌丸】

近年では、平成23年に発生した東北地方太平洋沖地震や紀伊半島大水害の災害支援にも出動し、大量の瓦礫などを効率よく回収した実績があります。

一方で、南海トラフの巨大地震が発生した場合には、「海和歌丸」は迅速な「航路啓開」を行う必要がありますが、基地港の被災も懸念されるため、代替する基地港の検討を開始したところです。

本年6月に試験寄港を行った深日（ふけ）港（大阪府岬町）は、大阪湾内にあるため現在の基地港と比べ想定津波高が低く、かつ、紀伊水道などの航路啓開の活動海域にも近いことから、基地港を代替する港として期待できます。

また、代替利用には地元自治体の支援や協力も重要であるため、今回の寄港にあわせて田代岬町長に乗船して頂き、同船の任務や発災後に海上交通路を確保する航路啓開の重要性について、理解を深めていただきました。



▲【深日港に試験寄港した海和歌丸】



▲【多くの報道陣による取材状況（試験寄港時）】

今回の試験寄港により、深日港に安全に接岸できることや、回収した漂流物を陸揚げするスペースを確認しました。また、多数の報道機関の取材もあり、大規模災害に対する地域の関心の高さを実感し、「安全・安心」の責務について再度認識したところです。

今後も、「南海トラフの巨大地震」に備えた検討を進めていきます。

● 「ぱしふいっくびいなす就航15周年記念クルーズ」 宿毛湾港新港へ寄港！

(宿毛市 企画課)

クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」が「就航15周年記念クルーズ 神戸」として、7月12日宿毛湾港新港へ寄港しました。「ぱしふいっくびいなす」は今回で18回目の寄港となり、宿毛市民に親しまれている客船のひとつです。

当日は岸壁にて「かつおのタタキ」「きびなご塩焼き」「鯛めし」などの郷土料理の接待や物産展を行いました。地元園児による交流イベントでは、歌やダンスを披露し、また乗客の皆さまにも参加頂くなど、楽しくにぎやかに開催できました。

今回の寄港では、一般公募の船内見学会に加え、地元小学生の『キャリア教育』の一環として、船内勉強会が開催され、船長講演で由良船長の貴重な話を伺った後、船内見学を行いました。普段目にする事のない豪華客船の様々な設備やクルーの仕事風景に児童たちは感嘆の声をあげていました。

15周年という節目のクルーズに宿毛を寄港地として選んで頂き嬉しく思います。短い時間ではありましたが、乗客の皆さまに「すくも」を知っていただく良い機会となりました。これからも多くの皆様と宿毛湾新港への寄港を通じて繋がっていき、その「出会い」を大切にしていきたいと思っております。



【送迎イベントで歌を披露する園児】



【ぱしふいっくびいなす】



【由良船長の講演】

●第4回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in OITA開催！

(九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所)

8月24日(土)、23日(日)の両日、海の幸を使ったご当地グルメの人気を競う「第4回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in OITA」が大分港西大分地区にある「かんたん港園」で開催されました。北は北海道から南は鹿児島まで全国各地から15箇所のみなとオアシスが出店した今大会は、みなとオアシス宇野(岡山県)の「たまの温玉めし」がグランプリに輝き、2位にみなとオアシス瀬戸田(広島県)の「多幸(たこ)のみ焼き」、3位にはみなとオアシス津久見(大分県)の「鮪(まぐろ)こわた空揚げ」が選ばれました。最終日はあいにくの悪天候でしたが、全国各地のSea級グルメを味わおうと、2日間で約2万2千人の市民が訪れ大変賑わいました。



▲【テープカットの様様】



▲【グランプリの店には長蛇の列・・・】

●国土交通省港湾局監修 港湾データブック「数字で見る港湾2013」が発刊されました

(国土交通省港湾局 港湾計画課)

公益社団法人日本港湾協会が、「数字でみる港湾2013(国土交通省港湾局監修)」を発刊しました。

275ページにわたり、港湾に関する最新のデータや予算制度の内容、港湾政策の内容などがとりまとめられています。

全国の書店及び公益社団法人日本港湾協会ホームページにて販売中で、価格は1冊1000円となります。



監修 国土交通省港湾局
発行 (公社)日本港湾協会

●愛称「波の上みそら公園」に決定しました！

(那覇港管理組合 計画課)

那覇港管理組合では、平成25年4月に供用開始した「波の上緑地」について、多くの県民・観光客に利用され、親しまれる港湾緑地となるよう愛称を応募致しました。県内から344件のご応募を頂き、その中から波の上緑地愛称選定委員会（委員長 上間清琉球大学名誉教授）の選定を経て、沖縄らしく、地域に親しまれる愛称として、「波の上みそら公園」に決定致しました。

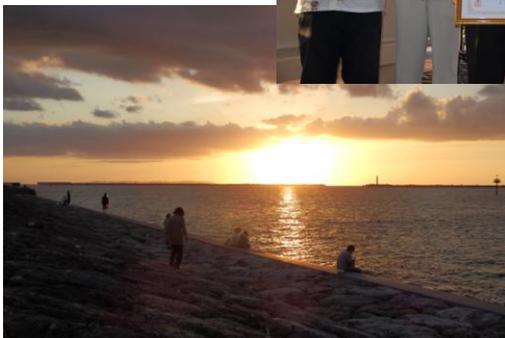
今後は、広報等への活用やサイン計画に基づく道路標識への愛称の標示等、愛称「波の上みそら公園」を広く活用していきます。



▲【「海の上みそら公園」を応募
いただいた與那嶺さん(左)と池城さん(右)】



▲【たくさんのマスコミ関係者が訪れました】



▲【「波の上みそら公園」の夕暮れの風景（1）】



▲【「波の上みそら公園」の夕暮れの風景（2）】

JATA旅博において港湾の利用促進をPR

(北海道総合政策部交通政策局物流港湾室)

四方を海に囲まれ海の玄関として35の港がある北海道では、「JATA旅博2013(9/12～9/15:東京ビッグサイト)」に初めて出展し、クルーズ船による来道者の増加や離島航路、日ロフェリ一定期航路(稚内港～サハリン州コルサコフ港)の利用促進に向けたPRを行いました。

JATA旅博は、アジア最大級の規模と実績を誇る旅行・観光イベントであり、今年も世界各国の政府観光局やクルーズ船社、旅行会社など154の国・地域から730の企業・団体が参加し、来場者も13万人を超えました。

道では、小樽、室蘭、苫小牧や離島航路のある利尻、羽幌(天売・焼尻)などの各港湾管理者と連携し、パネルの展示、パンフレット・地域特産品の配付、ゆるキャラも登場しPRするとともに、来場者に対するアンケート調査を実施したほか、ドイツ、香港、オーストラリアなど10カ国の旅行代理店との国際商談会への参加など、4日間にわたり本道各港湾や離島の魅力を大いにPRしました。

今後はこれらの結果を活かしながら、本道港湾の効果的な利用促進策検討につなげたいと考えています。



▲【北海道ブースの様子】



▲【応援に駆けつけたゆるキャラ】

(左:オロ坊(羽幌町)・右:キュンちゃん(北海道))



▲【国際商談会の様子】

